

土木図面の保管に関する海外事例調査 - ロンドン・ギルドホール図書館図面部門 -

日本大学 フェロー会員 ○五十畑 弘

1. はじめに

土木図面は本来、特定の構造物の施工情報や契約図書であり、通常の文献、資料と異なる物理的条件もあることから、積極的な保管対象とはなりにくかった。しかし、歴史的土木構造物の図面は土木史の史料としても有用な情報である。このため、歴史的鋼橋を中心とした図面の史料性に関する研究の一環として図面、関連資料の維持・保存・管理の実態に関する調査を開始した。本文では図面保管の海外事例としてロンドンのギルドホール図書館の調査結果について述べる。

2. 図書館の概要と調査対象

ギルドホール図書館は、5つのロンドン市図書館の1つでロンドンの歴史に関する分野を所掌し図書(Printed Book)、手書き文書(Manuscript)、プリント・図面(Print & Drawings)の部門に分かれている。図書館全体の収蔵資料は、主に15世紀から今日までのロンドンの地誌、ロンドンの生活に関するものが対象で、建築物や橋梁なども含まれる。地域は、シティーだけでなくロンドン全域、および周辺の郡もカバーされる。収蔵図面の多くは画像データとして保有するが、必ずしも収蔵全体を対象としている訳ではなく、一般的な地図、写真、彫刻ポートレート、トランプカード、そ

の他、短命なものは画像データ化されていない。

プリント・図面部門の収蔵は200年にわたり寄贈あるいは購入により収集してきた約4万点で18,19世紀のものが主体となっている。これらのうち図面はすべてがデータベース化されており、全体の半数以上は、画像としてもデータベース化されている。なお、図面以外には10万点の切り抜き、5万点の写真も保管されている。本調査では図面部門を対象として主として図面資料の保管・管理の状況の調査を行った。

3. 調査結果

3.1 保管形態

オリジナルの図面の保管は、平置が主体である(写真-2)。筒に丸めて保管するものは限られたものである。図面は、閲覧用にマウンティングされ、箱に収納されて書架に収納されている。

3.2 マウンティング(写真-3,4)

図面は1枚ごとに台紙(ボード)に片側を固定されてヒンジ状とされ、その上に透明フィルム(ミラネックス)で覆っている。閲覧中この上からトレースも許容される。台紙は厚紙であったものが1mm厚以上エステルの強化ボードとされたが、スペースをとり過ぎることから、現在では薄手のものが使われている。ソフトであるが強化ボードに比べて安価で3倍の保存量がある。

3.3 図面の修復

図面の修復は一部の特殊なものの外注を除き、図書



写真-1 プリント・図面部門閲覧室



写真-2 図面収納箱と書棚

キーワード 図面, 土木遺産, アーカイブ, イギリス
連絡先 〒275-8575 習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部土木工学科 email: isohata@cit.nihon-u.ac.jp



写真-3 台紙にマウンティングされた図面



写真-4 閲覧に供されるオリジナル図面

館内部で 3 名の修復資格（修士課程で履修）をもつ職員が修復を担当している。

3.4 コンテンツのデジタル化

データのデジタル化は図書館の資料公開手段として力を入れてきた。1993 年頃からシステムが構想されて 1995 年からロンドンの資金によって開発が開始され現在供用されている「COLLAGE 画像データシステム」（コラージュ（COLLAGE：City of London Library & Art Gallery Electronic, 表-1）。

この画像データシステムは、ギルドホールが収蔵する図面、地図などの画像データの検索システムで、検索した画像は高速でスクロールが可能で、部分的に拡大もできる。検索画像を画面上で見ながら関連情報も読むことができる。画像はオンラインでデータとしてあるいは、プリントとして入手（有償）できる。

2006 年時点でデータ数は約 3 万点で、このうちウェブ上で検索できる画像データ数は約 2 万点となっており、データベース化は現在も継続されている。内容としては、ギルドホール図書館のプリント・図面部門が収蔵する 1000 点の地図、25000 点のプリントやギルドホール美術館の全コレクションがある。これらの収蔵分野には約 1000 点の風刺画や 6000 点の絵画、水彩画、図面および彫刻の他、Sir Matthew Smith のコレクション、Harold Samuel の遺譲された 17 世紀のオランダおよびフランドル画の作品、ミレー、ロセッティその他の同時代の著名な画家による重要なビクトリア期の絵画、スケッチ 3000 点も対象とされている。

3.5 収集・公開

資料の収集は、主体は寄贈であったが、近年購入が増加傾向にある。しかし、予算の制約もあり図書館の保

表-1 データベース

書誌データベース名: Talis
http://www.cityoflondon.gov.uk/librarycatalogue
画像データベース名: Collage
http://collage.cityoflondon.gov.uk/collage/app

管設備、閲覧、公開機能を充実させることで寄贈を促している。収蔵資料の公開については、オンラインを含む閲覧以外に収蔵品の定期的な展示がされている。2006 年 8 月に「テムズに架かる橋」として橋に関わる絵画、図面が展示(一般無償公開)された。展示品はカタログとして出版物される。

4. 考察

図面の修復、保護をしつつ利用者への公開が図られている。利用資格の制限はなく予約なしに来館しオリジナルの閲覧も可能である。設備や管理体制も整えられ保管状況や、情報発信、公開性も高い。イギリスの首都ロンドンの図書館として資金的に恵まれた状況にあるものと思われるが、図面資料保管の模範的な状況にあるといえる。

5. あとがき

国内についても図面管理の調査をアンケート調査等により実施しており、この調査結果については別途報告する。なお、本調査は 18 年度文科省科研費助成を受けて実施したものである。

参考文献

1) ロンドン市図書館ホームページ

<http://www.cityoflondon.gov.uk/Corporation/>